

Title	ジエムス・ボーナー博士の マルサスと其の事業増訂版
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1925
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.19, No.8 (1925. 8) ,p.1246(156)- 1248(158)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19250801-0156">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19250801-0156</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

氏の議論としては、是れ亦吾人の物足らずとする所である。

以上は評者が本書を通讀した際に心付いた點の或るものに就て、私見を述べたものである。要するに本書は著者の實歴に基く記述ある爲めに、學者の机上に於ける研究に見出す可からざる一種の感興を讀者に與へ、一讀能く既往數年間の經濟的狀態に對して、活きた知識を收めしめる効果の大なることが認められる。而して著者は本書の諸處に於て、學理學說に通せざることを斷つて居るが、吾人の見る所を以つてすれば、本書の専門學術的產物でないことは勿論であるとしても、著者が通貨金融等に對して、正確なる學問上の知識を藏めて居ることは、編中到處に認められる。我國の實際家にして續々井上氏の如き業績に従つたならば、學問と實際との調和に資するもの大なるを得るであらう。

### ジェームス・ボナー博士の「マルサスと

### 其の事業」増訂版

高橋 誠一郎

Philosophy and Political Economy. の著者として最も熟く我が經濟學界に知らるゝ法學博士 James Bonar 氏の好著 Malthus and his Work. の出版せられたるは一千八百八十五年のことであつた。本書は人口論に非ずして、人口論に關する Malthus に就いての敘述である。従つて其の第一編は Malthus 著「人口論」の由來實歴及び内容を取扱ひ、第二編は人口論との關係に於て其の經濟理論

を、第三編は其の倫理學及び政治哲學を紹介し、第四編は「人口論」に對する批評を論評して、其の學說が猶ほ如何なる程度まで有價値のものたるかを決定せんとし、最後の第五編は Malthus の生涯を説いて、讀者をして彼れの人物と其の事業とを聯想するに資せしめんとしてゐる。本書中に於ける「Adam Smith は總べての人稱揚して、而も何人も讀まざる一書を殘し、Malthus は何人も讀まざる、萬人誹謗する一書を殘せり」云々の章句の如き、幾度か我が國の先輩諸學者によつて引用せられたる所である。(cf. *ibid.*, p. 3.)

而も此の書は數年に互つて絶版を爲り、學界の後進に多大なる不便を與へて居つたが、昨一千九百二十四年、即ち初版刊行の後、三十九年にして其の増訂再版を見るに至つた。新刊は若干の註記を添加し、舊版の顯著なる誤謬を訂正し、Malthus の肖像を掲げ、第五編の傳記を擴大してゐる。Malthus の肖像を掲げたる書は Guillaumin の Dictionnaire de l'économie politique, 1853, II. に於ける Joseph Garnier の彼れに關する項目、Malthus, Essai sur le principe de population, publié par G. de Molinari—Petite Bibliothèque Économique, 1889. 及び Dr. Drysdale の Life of Malthus, 1889. であるが、Bonar 博士は John Linnell が一千八百三十三年(即ち Malthus 逝去の前年)油を以て寫生し、自ら彫刻せる版畫を此の書の口繪として掲げてゐる。颯爽たる老儒の英姿は生けるが如くに吾人に迫るものがある。

Bonar 氏が初め Malthus 傳を草するに當つて依據したるものは Malthus の終生の親友 Chichester の僧正 Otter が Malthus の死後、一千八百三十六年に、Pickering によつて出版せられたる其の Political Economy 第二版の卷頭に附せる Memoir of Robert Malthus. 並びに Haileybury なる東印度校の同僚 William Empson 教授が一千八百三十七年一月の Edinburgh Review. 誌第百三十號に掲

げたる前掲書の評論であつた。然るに氏は其の後 Colonel Sydenham Malthus (一千九百十六年歿) の好意によつて一千八百八十七年 Letters of David Ricardo to Thomas Robert Malthus, 1810-1823. を出版することを得た。而して同氏の厚情は亦た Ocker 僧正によつて引用せられたる初期の書翰の原文を使用することを得せしめた。而して一千八百九十年、故 John Orlebar Payne の History of the Family of Malthus. の出版によつて其の家系は第十五、六世紀の昔まで遡ることを得るに至つた。更らに彼れが後年の書簡にして Hollander 及び Foxwell 等によつて公にせられたものがあつた。斯くて博士が Malthus 傳は此の新刊に於て著しく増訂せらるゝことゝ爲つたのである。

(附記) 此の書は我が學界の先輩によつて「マルサス及び氏の著作」と翻譯せられたることを記憶するも、余は今之れを「マルサスとその事業」と稱した。假に本書中に於ける For posterity the Work of Malthus was not in the East India College, but in his writings. (P. 430.) の一句を譯出するを以て「著作」と做さんか、終に意味を成すこと能はざる可きを想へるが故である。

# 前號 (第十九卷 第七號) 目次

(大正十四年七月號)

金貨本位制度に關する根本問題	堀江 歸一
英國都市起源考	野村兼太郎
ナッソウ・ウイリアム・シニョアに於ける收穫遞減の法則	濱田 恆一
經濟的世界の數學的表現	武部與八郎
自然的地理的環境の經濟的考察	伊藤 秀一

●一年一冊定價五分  
●半年一冊定價四分  
●全年一冊定價五分  
●郵稅金壹圓五角  
●郵稅金壹圓四角  
●郵稅金壹圓

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛  
●營業に關する用件は發賣元宛  
●原稿締切期日は發行の前月十日限

大正十四年七月卅一日印刷納本  
大正十四年八月一日發行  
每月一回一日發行

三田學會雜誌  
禁轉載  
第九卷第八號  
編輯者 江田 範 保  
發行所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地  
印刷者 金子 鐵 五 郎  
印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地 金子 活 版 所

發賣元 丸善株式會社三田出張所  
東京市芝區三田貳丁目壹番地  
電話高輪 一九二六  
●尙は本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會